

環境審議会水環境部会 審議結果概要

1 諮問事項（令和2年11月30日付け水保第986号）

令和3年度公共用水域及び地下水の水質測定計画（案）について

2 審議経過

（1）開催日

令和2年12月17日（木）

（2）出席委員

- ・近藤昭彦委員（部会長）、水野友貴委員、佐々木淳委員、杉田文委員、
桑波田和子委員、高梨義宏委員、鶴岡宏祥委員
- ・福田英明特別委員
（代理出席）田村厚雄特別委員、白井基晴特別委員、西澤賢太郎特別委員

3 審議結果

諮問事項については、原案のとおり承認された。

4 主な質疑・意見

別紙のとおり

諮問事項「令和3年度公共用水域及び地下水の水質測定計画（案）」に関する 質疑内容

(測定手法について)

【質問】

流量の測定だが、原則として、干潮時に流速を計るという理解でいいか。

【回答】

流速をとり、断面を掛け合わせて、流量を算出している。

【質問】

地下水の測定計画について、採水深度、深さの情報について確認したい。

【回答】

井戸の深度につきましては、市町村に選定を依頼した既存の井戸を活用しているため、深度までは把握しておりません。

その他の報告事項に関する質疑内容

報告事項（1）水質汚濁に係る環境基準の類型見直しについて

(見直し期間について)

【質問】

長期間見直しが行われなかったということで、長期間とは具体的にどの程度の期間見直されなかったのか、また、今後、適宜見直していくとのことだが、見直しのスケジュール感があれば教えてほしい。

【回答】

一点目の見直しが行われなかった期間については、指定について一番早いもので、昭和46年頃であり、指定以降見直しは行っていない。

先ほどの説明で、資料1-3における環境基準達成率の推移で、安定して達成率が上がってきているのが、ここ10年程度であり、見直しの検討が課題となってきたものと

考えている。今後のスケジュールについては、具体的に何年間でということはいえないが、県内河川をいくつかのグループに分け、対応していきたいと考えている。スケジュールも含めて今後検討していききたい。

補足だが、今後全ての河川を対象に、情報の整理をして、見直す必要がある水域、見直す必要のない水域について、全面的に検討していききたい。部会長のおっしゃるとおり、中長期的に取り組んでまいりたいと考えている。

(見直しを行う項目について)

【質問】

参考資料の最後で示されているのはBODの上位基準達成状況の一覧だが、見直しの検討の際はBODに限らず、他の指標についても幅広く検討していくという理解でいいか。

【回答】

今回示した検討方法は、国や他の自治体の方法を参考に示しているものである。

千葉県として、検討への具体的な作業に進んだ段階では、他の項目も、状況に応じて、検討に含めたいと考えている。

報告事項（2）東京湾に係る第8次総量削減計画の進捗について

質問・意見無し

報告事項（3）印旛沼及び手賀沼に係る湖沼水質保全計画（第7期）の進捗について

(地下水からの負荷について)

【質問】

異常気象の影響により地下水や底泥から湖沼への負荷が増大すると聞いたことがあるが、次期計画では、地下水からの負荷を考慮しているのか。

【回答】

次期計画のモデルでは、流域河川に湧出する地下水については、河川負荷量の実測

値を用いることで、その負荷を考慮している。沼の内部等に湧出する地下水については考慮していない。

【意見】

地下水は、あらゆる水収支の中で一番安定な成分なので、経年変化は大きくないと考えられる。

【質問】

地下水は、昭和の時代と比べると変化しているのではないか。

【回答】

そのとおりである。地下水の滞留時間は数十年のオーダーなので、過去を考慮しないと時間の長いシミュレーションでは難しいところがある。

(印旛沼・手賀沼の水質について)

【質問】

印旛沼が全国ワースト2位、手賀沼がワースト3位であるが、何が要因かは判明していない。関係する部署全てが連携して取り組むことが大切である。

【回答】

関係部局が協力して対策を進めていくことが大切であると考えている。今後とも、協力しながら対策を進めていきたい。

(水質予測シミュレーションについて)

【意見】

現状では、窒素とリンを削減してもCODが削減されていないので、窒素とリンの制限があまり効いていない状態が考えられる。観測データを使いながら栄養塩制限になっているのかどうか考慮してもらいたい。栄養塩制限になっていないとすると、光環境の改善や水温の上昇により、プランクトンが増加しやすくなり、その結果CODやクロロフィルaが増加する傾向がある。これらの点について丁寧に見ていくと良い。

【回答】

春の水温が高いときには、珪藻が増加していることを観測しているので、その点などについて丁寧に見ていきたい。

【質問】

モデルの妥当性については当部会の中で審議するのか。また、現計画の進捗状況は、次回に報告するのか。

【回答】

モデルの妥当性は事務局で十分検討した上で、当部会で報告することを考えている。計画の進捗状況についても、次回に報告させていただきたい。